

放送日： 平成 20 年 10 月 20 日

タイトル： 脳梗塞について

担当者： 医師 小河 秀郎

脳梗塞という病名を聞くと、皆さん恐い病気というイメージをお持ちかと思います。脳梗塞は脳組織を栄養する血管が何らかの原因で詰まってしまい、その血管に支配されている領域の脳組織が死んでしまう病気です。

症状としては、死んでしまった脳組織の場所によって様々です。運動神経が障害されれば運動麻痺が生じますし、感覚神経が障害されれば痺れが生じます。平衡感覚を司る部位に障害が出ればふらつきやめまいの症状が目立ちますし、言語野が障害されれば言語がしゃべりにくくなります。急に目が見えにくくなるという症状が出る場合もあります。一般に脳梗塞ではこのような症状が突然出現すると言われていています。しかし、実際には早朝や睡眠中に生じたり悪化したりするケースが多く、朝起きた時に気付かれることが多いようです。また、症状が 1 時間ぐらいで消えてしまう一過性脳虚血発作という病気もあります。先ほどもお話しした通り、脳梗塞は血管が詰まってその先の脳組織が死んでしまうという病気ですが、血管が詰まってから脳組織が死んでしまうまでには少し時間が掛かります。一過性脳虚血発作では一度詰まりかけた血管が再び開通したものと考えられています。また、完全に血管が詰まってしまった場合でも、症状が出現してから 3 時間以内に血管を開通するような薬を使用すると、後遺症が軽くすむ場合もありますので、症状に気付かれた場合はできるだけ早く医療機関を受診されることをお勧めします。

予防も大切です。脳梗塞になりやすい慢性疾患として、高血圧、糖尿病、高脂血症、不整脈、肥満などが挙げられます。また、たばこを吸う方や避妊薬を使用される女性も脳梗塞になりやすいと言われていています。このような慢性疾患や生活習慣をお持ちの方は、これらを改善することで脳梗塞の発症を予防することが可能だと考えられています。また、これまでに脳梗塞や一過性脳虚血発作になったことがない方でも、血管や心臓を詳しく調べると脳梗塞になりやすい状態にあるかどうか分かることもありますので、55 歳を越えられた方で、何らかの慢性疾患をお持ちの方は一度、検査を受けられても良いかもしれません。脳梗塞の後遺症は重い場合も軽い場合もありますが、死んでしまった脳組織は再生することはありません。予防につとめ、なってしまったらできるだけ早く受診して頂くようお心がけください。